

# 羽生市の水田農業構造 改革対策関連について

奥沢 和明 議員

・質問 国は今後の農政の方向を示すため、食料・農業・農村基本計画の下、品目横断的経営安定対策、米政策改革推進対策、農地・水・環境保全向上対策を三本の柱に経営安定対策等大綱をまとめた。

そこで市は、土地利用型農業を持続的に発展させるには、何人位の担い手が必要で、どのような施策が必要と考えているか。また、米を含めた地域作物の戦略的販売、水田の利活用状況について伺う。

・答弁(経済環境部長) 本市の土地利用型農業の持続的発展のためには、三・四ha以上の経営規模を有する認定農業者を百五十人、集落営農組織は二十団体程度を目標にその育成と確保をする必要がある。

その施策としては、認定農業者に対する企業の経営形態の導入と地域振興作物等を組合わせた経営の複合化、集落営農組織の育成、定年者や帰農者など新規就農者の確保、農地の出し手と受け手の利用調整など地域農業を支える安定的な担い手と人づくり、環境づくりを基本とした施策展開が必要と考えている。

次に、地域作物の戦略的販売、水田の利活用については、良食味で消費者から高い評価を頂いている「彩のかがやき」を「羽生産彩のかがやき」としてブランド化するとともに、コシヒカリなど五品種への作付け誘導を引続き図っていく。

また、農業・化学肥料の使用を従来の半分以下に抑えた特別栽培米の生産、生協との取引を通じた減農薬栽培米づくりや学校給食への羽生産米の利用など農業者主導による取組みも推進していく。

## その他の質問

・利根川河川敷堤防工事に関連したまちづくり  
・羽生総合病院への土地無償貸与の今後の考え方

# 羽生総合病院の移転先 について

中島 資二 議員

・質問 羽生総合病院は、その老朽化と狭あい化から市に建て替え計画の協議、交渉をしていると聞かすが、話の進展がうかがえず病院の先行きを心配する声が聞かれる。

当該病院は緊急・救急の場合でも安心できる医療体制という面からも、当局にとってなくてはならないものである。そこで、要望の神戸地区への移転が無理ならば、同じく国道やイオンモールも隣接する砂山地区へ建設することはどうなのか市当局の見解を伺いたい。

・答弁(企画財政部長) 羽生総合病院の移転先について、病院側から要望を受けた市内神戸地区への移転は、関係機関に対してあらゆる方法で働きかけを行っているものの、農地法やいわゆる「まちづくり三法」の見直しに伴って、基準に合致するものではないとして承認を得られていない状況である。

議員提案の砂山地区は、国道一二五号線沿いで小松台工業団地に接するとともに、付近には大型商業施設もオープンしているなど、立地条件としては比較的良好な場所にあるといえる。

しかし、当該砂山地区は神戸地区と同じく、農業振興地域の農用地になっており、かつては土地改良事業も実施された区域であることから集団農地として位置づけられている。従って、現在神戸地区の立地に対して県が示している問題点とほぼ同じ状況にあるため、当該砂山地区を移転先として病院側へ紹介することについては控えさせていただきたいと考える。

## その他の質問

・農機具の廃油の処分について

・質問 国は今後の農政の方向を示すため、食料・農業・農村基本計画の下、品目横断的経営安定対策、米政策改革推進対策、農地・水・環境保全向上対策を三本の柱に経営安定対策等大綱をまとめた。

そこで市は、土地利用型農業を持続的に発展させるには、何人位の担い手が必要で、どのような施策が必要と考えているか。また、米を含めた地域作物の戦略的販売、水田の利活用状況について伺う。

・答弁(経済環境部長) 本市の土地利用型農業の持続的発展のためには、三・四ha以上の経営規模を有する認定農業者を百五十人、集落営農組織は二十団体程度を目標にその育成と確保をする必要がある。

その施策としては、認定農業者に対する企業の経営形態の導入と地域振興作物等を組合わせた経営の複合化、集落営農組織の育成、定年者や帰農者など新規就農者の確保、農地の出し手と受け手の利用調整など地域農業を支える安定的な担い手と人づくり、環境づくりを基本とした施策展開が必要と考えている。

次に、地域作物の戦略的販売、水田の利活用については、良食味で消費者から高い評価を頂いている「彩のかがやき」を「羽生産彩のかがやき」としてブランド化するとともに、コシヒカリなど五品種への作付け誘導を引続き図っていく。

また、農業・化学肥料の使用を従来の半分以下に抑えた特別栽培米の生産、生協との取引を通じた減農薬栽培米づくりや学校給食への羽生産米の利用など農業者主導による取組みも推進していく。



羽生総合病院